京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金[illegible]●三ヶ月前金[illegible]▲六ヶ月前金[illegible]▲郵稅一月金[illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十錢
●陰曆十月十二日
發行兼編輯 印刷人 山下英留
京城西署西小門通
發行所 京城新報社
電話六六三

論説

敢て當局者の反省を促す

立石生

日韓新協約の成立は、確に韓國をして一層[illegible]の實を[illegible]ならしめ、且つ的確たらしめしものにして、將來之が施設經營の局々たるは恰かも順風に從つて帆を揚るが如し抑々日韓協約の結果韓國に統監府の設立されてより爰に一年有餘、其間日尚淺きにも拘はらず、半島內外の政務着々として其緒に就き改善更新の蹟刻々として其實を擧げ世人をして其經過行程の鮮明敏速にして恰かも快刀の亂麻を斷つの感あらしめたるもの、是れ偏に當局者其人の非凡なる力量と辛辣なる手腕とに歸せざるべからざるは言ふを俟たざる所なり。然れども吾人は爰に遺憾ながら敢て當局者に對して一篇の苦言を呈し、併せて之が反省を促がさゞるべからざるの已むを得ざるものあり、开は他なし近時當局者の施設が、其本末を顚倒し、權益を計らざるの甚だしき事是なり、今更ら事新らしく言ふ迄もなく、苟も一國の國富を增進し、民力の充實を促致せんと欲せば須らく殖產興業の隆盛を圖らざるべからず、蓋し殖產興業の事たる一國國力の根源にして又民富の基礎たればなり、彼の泰西列强が今日の文明を生み、富力を致し堂々宇內を睥睨するの槪ある所以のものは一に係はつて其國の興產と起業との獎勵發達に努めし結果にして、苟も事の成る所必ず之を企て、利の在る所必ず之を收め、上下一致其官業たると私營とを問はず、又個人たると合名たるとを論せず、補翼戮力只に國利を圖り、民福を計るに外ならざりしが爲めなり、彼の膽量豆の如く、器度褊の如き蠢々たる爲政家が徒らに口に誇大の言を吐き莊重の辭を弄するにも拘はらず、其一度民間有爲の士の一度び起つて事を起し業を爲さんとするを見るや、一齊に之を嘲りて直ちに投機的事業山師的計畫となし、自ら之を保護獎勵せざるのみならず、却て之を抑制壓迫せんとするが如きに比すれば固より同日の談にあらざるなり、殊に吾人は移民地の開發及發展の上に於て之が殖產興業の一日も忽にすべからず、益々之を獎勵し鼓舞し保護し標榜し以て國家百年の長計を樹つるの切なるを覺ゆるものなり惟ふに韓國諸般の事今や時々刻々改善の緒に就き八道の山河稍々文明の光被する所となりしと雖も只吾人をして爰に一種異樣の感を抱かしむる所以のものは、其爲政當局者が一面に於ては極めて言を美にし、辭を壯にして盛んに其施設經營の急なるを絕叫せるにも拘はらず、他面に於ては鷹眼猖目之が民間有爲の士の事を企て、業を起さんとする者を抑壓拘束せんとするの傾向あるのみならず却て之を蛇蝎視し、仇敵視すること是れなり、思ふに是れ當局者の眞意が果して其邪邊に存するや、豫め測り知るべからざるも、察するに赤手空拳敢て堅實の資源を有せず、確固なる實力を具へざる浮浪漢が、一攫千金の榮華を夢みて投機的事業を試み蹉跌扞格の結果往々累を招き、身を滅ぼし、却て茶毒を社會に及ぼすの虞あるに依るべしとするならんも思ふに是等は餘りに老婆心の熾烈なるものにして、韓國昨今の如き向上の時代、發展の時運に取つては極めて因循なる方策、姑息なる手段と云はざるべからず、見よ彼の砂礫の中に黃金を拾ひ、塵埃の中に珠玉を見出すは是れ畢竟砂礫塵埃の汚穢なる中に其指を投じ其手を觸れたる結果にして遊逸拱手晏如として只偏に黃金を求め、珠玉を得んとするは到底不可能の事なり、豈に夫れ赤手空拳一浮浪の企畫、一寒措の計籌と雖も蔑如せず悅んで之を迎ひ進んで之を補くるの雅量なくして可ならん乎(未完)

關東州金產地

七、柏嵐子屯　趙家屯の南一里に在り溪流水多くして採掘に困難なり

八、張家溝　兗甲店の南西二里に在り村前に溪流あり西南約二里にして金州の小窯口に注ぐ採掘に費用を要すること多く價値少し

九、徐家屯　張家溝の西方一里半、三四尺堀下せば多少の金粒を得べし

十、破車溝附近　華家屯の東北一里の處にある部落を破車溝と稱す破車溝の東北一里の地に孫家屯及揚家屯の二砂金地あり七年前の發見に係り露人が事業に着手せんとするや偶々戰役となりしものなり含金層整然として存在し其區域も廣きを以て計劃宜しきを得ば多少の收益あらん

十一、小袁家屯　普蘭店の東南二里にあり望少し

十二、勝水寺　金州の東北三里大和尙山の東麓にあり勝水寺の私有地にして採取を禁じ居りしが露國時代に同國人が寺主に强請して其承諾を得採取に着手せしも收支償はず三ヶ月にして中止せりといふ砂金層一定し居れるを以て小規模の設備を以てせば可ならん

十三、老鐵山　旅順口の西二里に屹立するものを老鐵山とす其麓に白嵐子と稱する村あり露人の經營したる遺跡によつて考ふるに營利事業となすに適せず

十四、小平島　旅順口と大連灣との中間に位する一半島にして良港を有し大連を距る五里の地にあり二十年前に發見せられ當時採收人毎日一千人を下らざりしといふ露治時代の採掘者某なるもの目下引續き採掘したき旨都督府へ出願中なりといふ海中の土砂よりも多少の產金を見るべきも大規模の業と爲すには適せざるべし(完)

本年中 仁川貿易狀況

本年一月は年始の事とて一般の人氣落付勝にて兎角悠然たるの氣風あり諸事見送りの姿なるのみならず冱寒のため土木業休止し勞役概ね閑散を來し著しく購買力を減じ加ふるに各地結氷に支へられ貨物の集散減少し船舶の入港少なく輸送の業振はず市上は昨年の殘貨を控へ商品の仕込は概ね客臘中に之を終り未だ仕込に取懸らず輸入は著しく減少して九十九萬八千餘圓に下り前月に比し九十四万餘圓を減じたり斯る有樣なるが故に日本人向の諸雜貨賣行捗々しからず小賣商店は何れも閑散を告げたり韓人向商品は韓曆正月前の事とて韓人側の需用幾分か增進を呈したりと雖も尙ほ未だ好況なりと云ふに至らず輸出は前月に引續き玄米の出廻り白米の輸出に伴ふて盛況を呈し大豆牛皮も亦相應の出廻りあり前月に比しては稍其額を減せしも諸雜貨の輸出を併せて其價額三十一万三千餘圓に達し前月に比し二十五万餘圓を減少せり以上の狀況なりしを以て貿易及び一般の商勢は前月に比して寧ろ鈍狀にありき二月は前月末より本月上旬にかけては韓正月前の事とて市況活躍するに至るべしと豫期せられたるにも拘らずして左程の事なく中旬以降は韓曆正月中に在りて韓人の取引所中止の姿なりしため前月に比し市況閑散を極め漸く月末に至り韓人取引多少引締り來りしも尙ほ不振の域を脫せざりし日本人側市場の狀況も春來不振にして例年の常習を脫すること能はず市況沈靜に傾けり以上の商況なるを以て諸雜貨の輸入減退に陷り其額八十八万二千餘圓にして前月に比し約十二万圓を減少せり輸出は米穀の出廻り相當盛なりしも日本に於ける米價下落のため日本への輸出は少なかりしも國內各地に移送するのは比較的多かりし牛皮の出廻りは余程薄らぎ輸出も亦前月に比して約三万圓を減せしほどにて本月の輸出價額十八万七千余圓に過ぎず前月に比し約二十五万圓を減退せり(未完)

營口大豆豆粕概況

在荷は不相變少く遼河水淺く且收穫期に於て雨天多かりし爲め刈入れ約十日間後れたり漸く先月二十日前後より毎日一萬石前後集來するも新豆の廣東に向け輸出するもの不尠市場は矢張强氣にして豆粕製造の需用多きが故に多少の集來も相場には何等の影響を與へざるが如し大豆は十月初九兩二匁に始まり中旬大豆船の下航重さなるに從て八兩八匁の呼聲を見たるも廣東へ向け輸出品少なからざりしが爲め直ちに逆に戻り月末に至るも九兩三匁より七匁の間を昇降しつゝあり粕は十二兩貳匁に始まり十一兩七匁となり中旬十二兩五匁に至りたるも月末には下落して十一兩五匁に居据りの形なりとす銀の下落は豆粕の輸出に向て大なる援助にして從て輸出も盛なるべき筈なるも日本に於ては爲替相場下落せる爲め大豆豆粕の相場を下落せしめ且つ同地は割合在荷薄の爲め相場は不相變强氣にして不引合となり近年になき不振なり昨今毎日一万石前後の集來あれば日本の相場引上るか同地の相場下落するか何れか一方の勝利と爲るべく目下集積せる品を本年結氷期即ち此三週間の間に輸出することなれば運賃も從つて騰貴すべく自然結氷前には例年よりも活氣ある取引及輸送の起ることと察せらるとなり

京城諸職工平均賃金表

商業會議所調查

業別		十月	九月
日本人大工	日給	一、五〇〇	一、五〇〇
同 左官	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 石工	同	一、九〇〇	一、九〇〇
同 手傳人夫	同	一、一〇〇	一、〇〇〇
同 トタン鉄力職	同	一、五〇〇	一、五〇〇
同 木挽	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 疊師	同	一、五五〇	一、五五〇
同 ペンキ塗	同	一、五五〇	一、五五〇
同 仲仕	同	一、一〇〇	一、一〇〇
同 指物	同	一、七〇〇	一、八〇〇
同 車夫	同	一、三五〇	一、三五〇
韓人車夫	同	一、一〇〇	一、一〇〇
日本人桶屋	同	一、四〇〇	一、五〇〇
同 煉瓦職	同	一、六〇〇	一、六五〇
同 瓦職	同	一、六五〇	一、六〇〇
同 活版職	同	八五〇	八五〇
同 鍛冶職	同	一、五〇〇	一、六〇〇
同 提灯職	同	九〇〇	九五〇
同 井戸堀	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 菓子製造	同	八五〇	八五〇
同 表具師	同	一、二〇〇	一、二〇〇
韓人表具師	同	九五〇	九五〇
同 大工	同	一、二〇〇	一、二〇〇
同 木挽	同	一、三〇〇	一、三〇〇
支那人大工	同	一、三〇〇	一、二〇〇
同 木挽	同	一、二〇〇	一、二〇〇
同 石工	同	一、三〇〇	一、二五〇
同 煉瓦職	同	一、三〇〇	一、二五〇
同 人夫	同	六五〇	六五〇
韓人井戸堀	同	六五〇	六五〇
同 人夫	同	七〇〇	五五〇

小說

紘のみだれ (五)

永井櫻園

師匠の清糸は、お縫の辭を熱心に聞いて居つたが、深く同情を表したやう、

「那樣にお父さんが喧しいのなら、なぜ早く然う云はないんです、縫ちやんほどの喉がありや必然人氣の出るは受合なんだから、私も自分の弟子に若手の人氣太夫が有りや甚麼に心强いやらいつからでも出してあげるのに、これまで些とも云はないんだもの、なぜ早く云はなかつたのか」

「ですけれど、まだ滿足に語れもしない內から、寄席に出して下さいなんとは願はれないんですもの……」

と、極惡しさうに頸を垂れる。



「そりや縫ちやんの氣では然う思ふのも無理は無いけれど、總じて藝事なんと云ふものは、何程稽古したツてモウ宜いと云ふ果しのあるもんぢや無いんだから、好加減まで稽古したら觀客の前で稽古するのが、お錢も取れる藝も昇る、何より出世の途なんだわ、私等は能く皆なに話す事だが、縫ちやん所ぢやない、十一の年から寄席へ出て、年上の中に交つて隨分辛い思もして來たけれど、それでも案じるよりは生が安く、どうやら斯うやられる、茶を濁して遣つても逃げる、聽て下さる方でも、偶にや褒めて下さる方もあつたもんだ、それに私等の出た時と違つて、縫ちやんはモウ一ぱし語れるんだから、實を云ふとこれまでも無い早く出た方が宜かつたのだ、「ぢや、斯う云ふ事に爲やうぢや無かね。」と、清糸は些と考へて、

「この下半月から出ても宜いけれど、今年もモウ僅かばかりに押詰つてるから、寧その事來年の正月早々から初見參をする事にして、それまでに整然と獻立をして箸を取るばかりに準備をして置かうぢやありませんか、それとも今月の下季から出たいと云ふなら、直にも話は爲るけれど何方でも縫ちやんの宜いやうにするが宜い。」

「有難うございます、いゝゑモウ出してさへ頂けりや年内と云つてもモウ半月ばかりですから、寧それ正月からの方が宜しうございます。それまでに語物も復習たり種々な準備も出來ますから……」

「ぢや正月からと云ふ事に極といて、何より技藝が肝心だから、今日からでもズッと復習した方が可いでせう。」

は、御厄介でございますけれど、どうぞ宜しう願ひます。お父さんに聞かせましたら甚麼に喜ぶ事でせう、私此麼嬉しい事はありません。いつも〳〵言出されるんで戀々してましたが、これで厄遁れしたやうな氣がします。」

と、始の懿冷な樣子は希望と滿足とに輝くのであつた。

「ではね、お父樣に相談して、木綿で宜いから紋附と、そして上下を整へなきやならないから然う云つて御覽なさい、若もお父樣が不可いと言はれるやうなら、直に私に知して下さい、私の方で何うにか都合して上げるから……」

「は、御心切に有難うございます、では失禮して歸つて早速何も彼も相談して見ませう、必然喜んで準備は爲て下れるだらうとは思ひます、けれど若か何とか言ひましたら其時はまた御相談に上りますから、どうぞ宜しう願ひ申します。」

と、お縫は厚く禮を述べて歸つて往つた。

暴徒發生の主因

京城新報

行政、幣政、徵稅の整理今尙半途に屬す、施政改善の方法其全きを得ざること是暴徒の發生せの根本の主因なり、新協約の成立、軍隊解散の事に至りては唯に暴徒の威勢を助成せる直近の從因たるに過ぎず、舊制打破せられて新制未整備せざる爲め、官公吏は職を失ひて糊口の途に窮し、人民は生命財產の危害を感じて其堵に安んずる能はず、人心恟々上下惑亂滔々相率ひて暴行を敢てし騷擾を釀す所以なり、排日と云へ國權恢復と云ふが如きは政界一部の浮浪輩が徒に事を搆ふるの口實に止り、韓國民衆の腦裡焉んぞ斯の如き一定の觀念あらんや警察の威を以て兇徒を處罰する可なり、軍隊の力を以て暴民を剿討する亦可なり、然れども斯の如きは一時偶發の事變に處する姑息彌縫の策たるを免れず、根本の主因たる施政改善の實効を擧げざる限り全國民衆の胸底に鬱勃たる現下不穩の狀態は益々其熱度を高めて到底鎭靜の期を見ること能はざるべし、當局何んぞ速に暴徒發生の主因を看破して施政改善の進行を計り韓の民衆一般に安堵の念を與ふるの途を講せざる

協贊會閉會

博覽會協贊會は愈々本日を以て之が閉會を告ぐるに至れり、蓋し協贊會の趣旨目的たる、博覽會の隆昌と盛大を誘致すべく一般人氣の喚發と市中の殷賑とを圖り、以て之が有終の美を收めしめんが爲めにあり而して爾來同會の之が爲めに努力鞠躬せし熱誠は偉大なるものにして、トモカクも漢城初期の博覽會をして、別に非難の聲もなく、否な寧ろ比較的良好の成績を收め無事閉會を告げしめたるの功は之れ偏に同會の賜なりと云はざるべからず冀くは會長以下役員及び會員諸子夫れ幸に健全なれ

御遊學決定

韓國皇太子、賦性叡明利發に渡らせられ未だ幼き御年齡にも拘はらず、俊邁秀逸の才往々黎民をして嘆服措かざらしむ、思ふに嚴妃にして此の鳳凰兒あり、蓋し珍奇と謂つべし、聞く頃日御研學の日取り決定し遠く笈を負ふて我が帝京に遊ばんとすと必ずや御成効の程刮目して待つべきなり

今や季冬に入り、漸く其威を加へんとす、冀くは切々自玉加餐せられんことを、

青年館上棟式

基督教が澎湃の勢を以て全國に瀰漫し傳播せるは今更ら書を待たざる所なり、蓋し其崇高にして偉大なる思想は以て國民の品性を陶冶し、個人の人格を涵養する上に於て多大の勢力を有するものと云ふべし、一昨日上棟式を擧行したる基教青年會は確に如上の要求に促進され醵致せられて之が設立を見しものにして守舊固陋の念深く頑迷不靈亦甚すべかざる、韓國にありては、極めて時宜に適合したるのと云ふべし

ルーター電報

英國大艦製造（十五日發東京經由）

英國政府は海牙に於ける平和會議に屬し居たる希望絕へ果てたる爲め更に一大戰鬪艦を建造することに決したり

社會黨の示威運動（同上）

英國社會黨員は示威運動を試みし獨逸皇帝の行列を妨害せんとして警官と衝突し爲に死傷者を出すに至れり

東京電報

勞働大臣入京（十四日發）

加奈陀勞働大臣レミュー氏は今朝入京し帝國ホテルに投宿せり

東宮殿下御歸京（十四日發）

御旅行中なりし皇太子殿下には本日午前十時御歸京遊ばされたり各親王殿下各大臣以下多數の出迎者ありたり

晩香坡事件賠償（同上）

加奈陀政府は晩香坡事件に對する日本人の損害要求額米貨一万七千五百弗を支拂ふことに決し晩香坡出張中の同政府委員に支拂方を訓電したり

雜報

太皇帝大廟展謁

太皇帝は前號に記せし如く昨日午前十一時三十分嚴妃と共に昌德宮に行幸あらせられたり此時皇帝は皇太子と共に熙政堂門前迄出迎へられ太皇帝は乘車の儘便殿に於て皇帝及び皇太子に御對顏約五分間御談話ありし後直ちに皇太子と共に大廟を展謁あらせられたる後無事御還幸あらせられたり

太皇の雲峴宮訪問

校洞雲峴宮は太皇帝の御兄君なる完興君李載冕氏の居らるゝ所なるが太皇帝には即位以來同宮を訪問あらせられしことなかりしが來る十八日同宮を訪問あらせらるゝ由なりと聞く

太皇の還宮期

太皇帝が小安洞の別宮に還座せらるべしとのことは既に記せし通りなるが其還宮期は本月二十五日頃に擧行せらるゝ筈なりと

●太皇帝の密諭　太皇帝には現皇帝に對し德壽宮を安國洞に營建せられたき旨を密諭せし由

●白皇命名日　昨十五日はベルキーレヲポルド第二世命名日なるを以て伊藤統監及び竹添副統監は祝賀を述ぶる爲め當地のベルギー領事館に赴きたり

●韓太子の下賜　一昨日上棟式を行ひたる基督教青年會館へ對し韓國皇太子より金壹万圓を下賜されたり

伊藤統監の演說

一昨日の万國基督教青年會々館上棟式場に於ける伊藤公の演說左の如し

殿下貴婦人並に來賓諸君基督教青年會の會館新築に當り本日其基礎石を置くの式を擧げらるゝに際し予も亦韓國皇太子殿下に隨行して此處に臨み滿腹の喜悅を表し且つ本會將來の發達を祝するの光榮を得たるは予の頗る滿足に感ずる處なり本會の目的は予の贅言を俟たず世界各國の間に普く知れ居る所にして輓近本會の開設以來人生殊に青年の品性を高尙ならしむる爲めに如何なる利益あるやは衆人の已に之を認め各國の元首及び政治社會の均しく贊同して異存なき處なり然り而してその東方諸國に播延せるは昨今の事なるも我日本及び韓國に於ても我國の相續人なる青年が自己の行爲を善良ならしめ各々其の業務を忠實に盡して以て社會同胞に利益を與ふると渺なからずと信ず故に予は殊更に贅辭を重ぬるを省くべし然れども本會館の恩澤を蒙るべき韓國の青年に向つて一言せんとす將來に於ける韓國の運命は懸つて諸君の双肩にあり諸君にして其行爲を善良にし自ら勉勵して已まざれば韓國を隆盛ならしむる諸君の目的を達するを得べしと予は明言することを憚らず終りに臨み予は無限の感覺を以て本會の役員及び會員諸君が熱心に本會のために盡力せらるゝ事を深謝し將來益々奮發して韓國民を救れん事を切望す

●農商工部移轉　農商工部は京城博覽會場跡に不日移轉すべしと

暴徒仁川街道に雲集す

昨日仁川街道に暴徒五六百名顯はれしとの報某所に達したり

奉化の暴徒

一昨十四日慶尙北道大邱にある永谷警視よりの電報によれば十日午前八時ヘンカキの率ふる匪徒約三百余名奉化を襲ひ郡衙及び附屬建物分派所主事書記舍宅其他民家全部を燒毀したり此報に接し谷警視は巡查巡檢を連れ守備隊と共に急行約五里追擊し敵に多大の損害を加へたるに其主力は江原道三陟郡界大白山古直嶺に入る我に損害なし又十一日午前七時李康年の率ゆる約二百名及申乭石の率ゆる約三百名の匪徒は永春（忠北）方面より來り順興郡を襲ひ大砲を放ち分派所郡衙及び民家約百八十を燒き永春郡界に入れり熊澤少尉兵二十五を率ひ追擊中當時分派所巡查二兵七は奉化に出張中

●豐德の賊襲　十一月十日開城分署飯田警視の報に曰く九日午後八時暴徒約三十名豐德郡鈴井浦に來襲し金錢を强奪し同浦居呂伯三を殺害し李泰翊及崔明浩の兩家に放火し村民の避難せるに乘し本日まで掠奪を恣にしつゝある旨郡守及巡檢の報告に接したるを以て直に巡查巡檢を急派したり追て日本人石川某及高井良鐵太郞妻は負傷したりといふ

●暴徒の同志打　十一月六日驪州陰竹分派所巡檢金濟玉の報に依ば陰竹郡上栗面北斗里に目下暴徒六七十名屯集なし晝間は二三十人つゝ樵夫に紛し山中に穩れ夜間には附近部落に出て民財を掠奪しつゝあり暴徒の首領金鳳基の一團と首領某の一團と楊州郡牛川市場に爭論し全は部下の携帶せる銃を奪取せられ所丹方面に遁走せり

賊魁任玉汝の口供

去る十日楊州智分派所の手に捕へられたる賊魁任玉汝の陳述は地方に於ける暴徒の事情を窮知するに足るものあり

自分は利川唱義所左將なり陰曆六月十五日利川北面高斥里居親友李根豊來訪して曰く今や一擧して我國の非運を挽回するの時節は到底せり幸に今高明なる博士吾家に逗留しあれば同氏と謀りては如何と勸誘せられしが私は竊に當時の世論を聞き或は新聞を見るに付け三百里韓全土今や吾有にあらず家資財產擧げて皆日本の奪ふ處となりつゝあるは國民として常に慷慨に堪ざるも現今日本は國大に兵强くして淸國に勝ち露國と戰ひて之を破りたる戰術成熟の國なればたとへ我國の練習せる軍隊をして之に向ふも如何で之に當らん況して規律節制なき愚鈍の民を幾萬募集せばとて何を以てか當るべき如何に憤慨するも施すに策なく執るに道なしと答へたるに李は我家に逗留せる全羅道順天の人朱昌龍先生は神出鬼沒にして經天緯地の才能あり何ぞ多數の兵を要せんやと勸められて翌日同行して利川なる同人の宅に到り朱昌龍に逢見し一大義擧に付き方略意見を聞かんとせしも彼れは多くを語らず機に臨み變に應するあるのみとて茲に大事を謀らんとするものに對し其胸襟を開かざるは信憑する能ばずと思惟し翌日辭して歸宅したるに三月廿七日李根豊及朱昌龍は我家に訪ね來り過日來訪の勞を謝して曰く或處にて今唱義の約を結びつゝあり後日若し書信を發するあらば來會せよと相約して別れたるに七月七日李根豊より書信に接し翌八日李根豊宅を訪ひ朱昌龍及利川居金鳳基（四十二）廣州失村面九陽里居申奎熙（四十六）利川北面廉兒州洞趙奎顯（二十七）等と會し三十二名の砲軍を募集し茲に隊伍を作り朱昌龍は軍師長に李根豊は都總大將に申奎熙は右翼將に任玉汝は左將に金鳳基は隊長に趙常顯は餉向（主計）となり先づ廣州郡衙に至りたるに主謀者李根豊は意見衝突して部下一同の爲に殺されんとして何れにか逃亡したるを以て更に金鳳基を大將となし猿頭して朝飯を食し利川邑にて日本騎兵と交戰して之を擊退して趙常顯に砲軍八名を率ゐしめ邑內より銃十二挺を押收し又成州揚根等の地を徘徊し驪州に向ふ途中又々利川邑にて日本兵と交戰し部下二名卽死し申奎熙は行衛不明金鳳基、趙常顯、朱昌龍は龍仁方面に逃走し我は砲軍十二人を引率し廣州實村に引返したるに原州義兵隊長全秉癸の軍路を見聞し再び趙常顯を訪ひて更に砲軍を募集し七十餘名龍仁堀岩白岩市等を經て安城に侵入したり掘岩して接戰の際部下數名卽死或は逃走し敗卒を率ひて各所を徘徊し安城義兵隊長任成俟竹の一隊及原州隊兵姜翰柱忠州英頭居全君弼龍仁陂大に居る郊赫河竹山義郎里鄭同源等砲兵軍千八百余名合同安城を侵し日兵と交戰し亦敗散し漸く三十九名を率ひて揚振根等の地に入り義兵隊長崔大女に逢ひ數日間同宿又竹山遠一面に向ひ藁草谷等どし日本兵及巡查と交戰して又敗走此時趙常顯は彈丸に當りて卽死し幸して危險を免れ三十三名を帶同し龍仁ツツコ、ケー山上にて部下を說諭解散せしめ歸宅致さしむ廣州當林進中にて一進會員四名白岩市場にて同一名を銃殺せり洪秉善巡檢は竹山郡にて一方の隊長任俊なる者の手にて生埋にして殺したり白岩市にて日本巡查を銃殺し其劍を奪ひたるは崔大玄なり

●日韓人五名の行衛　二三日以來仁川京城間に八百名の暴徒が顯はれたイヤ嘸八百人であらうと巷說區々にして未だ取り留めた事もなかりしが十四日の午前十一時頃日本人三名韓人三名が電柱運搬の爲め京城を距る四里許りの高陽といへる所に至りしに俄然暴徒五十名許顯はれて銃砲を以て包圍攻擊せられ自分は僅かに一方の血路を開いて逃れ出でたるも他の五名は如何になりしか不明なりと一人の韓人が報道せしより一昨朝佐々木警部は巡查十一名を率いて出張し憲兵もまたこれに赴きたり

各地暴徒狀況

▲楊招（京畿）　邑內は曩に兵燹に罹り總戶數三百九拾餘の內完全なるは五六十戶に過ぎず郵便取扱所の如きも不完全なる元稅務主事宿舍內にて執務し居れり

韓人は晝に邑內に入り來るものなるも夜は悉く避難してあらず在留邦人は物資の供給なきに窮し居れり

同地警務分派所は未た復舊せず郡守は尙ほ京城に避難の儘歸任せず

▲甕津（黃海）　郡邑附近は暴徒の出沒益々甚しく同地より各方面への交通は全く杜絕の狀態にあり

▲康翎（黃海）　五日新式銃を携へたる暴徒五六名鷗州面中巷洞に來り砲手外一名を拘致せり

六日未明暴徒十余名分派所を襲擊す巡檢皆既に逃れてあらず賊は郡衙に迫り郡守を脅かし軍器を掠め天明に及び乘船して南方に去れり

▲孟山（平南）　六日正午我討伐隊は本郡衙に集屯せる金の率うる暴徒の主力を突擊し之れを四散せしむ當時四散せる暴徒の稗將二名を捕へて七日銃殺す

▲順川（平南）　曩に本部に入りたる暴徒の首魁は劉義奄にして其の他金觀珠、金鳴代等各自五百名以上の徒を支配せり渠等は皆往年本部培里の學塾にあり熾んに儒學を講し志操稍堅實なる等にして今尙ほ優に二萬の同志を叫合し得べしと壯言し居れりといふ

▲麻田（京義）　我憲兵隊に對し包圍の姿勢をとりし暴徒は九日我應援部隊の爲めに擊退せられ死屍二十有餘を遺棄せり

▲青松（慶北）　八日午後二時縣南面討岩洞に於て暴徒百五六十名と衝突し遂にこれを擊退せり

▲美城（慶北）　十日午後十一時舍谷面木谷洞に暴徒十餘名來襲し洞民金明俊なる者を慘殺せり

●遭難通信吏員遺族慰問　過般京城本願寺に於て營みたる殉難通信吏員の追弔祭には伊藤統監より祭典費として金百圓愛國婦人會韓國本部より金十圓寄贈せられたる趣なるが通信管理局にては此旨を各遺族に通知すると同時に當時祭典に用ひたる供獻物名旗及式場寫眞等を取纏め遺族に送致して之を慰むる所ありしに昨今續々其の厚誼を感謝し來れりと云ふ

輸出運賃值下の協定

商船郵船尼ケ崎の三汽船會社が會議の上輸出運賃を值上げしたるに對し穀物協會にては此れが值下げを交涉中なる事は既報せしが一昨日午後七時穀物協會樓上に相互相會し愈左の如く協定を遂でたり

値上運賃四十五圓に付ては值下をなさず但し各荷主が三汽船會社に依賴したる米穀運賃に比例して左の如き割引をなす事

一、一人が三汽船會社に支拂ひたる運賃の合計が二千圓以上に達する時は八分
一、四千圓以上は六分
一、七千圓以上は七分
一、一万圓以上は八分

但し社外船に積荷したるものは此限にあらず

一、穀物協會は今後相互紛議の中裁をなす

穀物斗量場請願

仁川穀物協會より昨三十九年十一月海岸穀物斗量場管理下附の件に就き請願するところありしに其後今日に至るも何等の消息をも聞かざりしが一昨十四日同協會々長奧田貞次郞氏より昨十五日の民會を機として至急何分の處置を煩はしたしと促し來りたるを以て仁川民團役所に於ては昨日右請願の件々を調査せんがため左の委員を擧げたるが之が委員會は不日開催さるゝに至るべしと

稻田勝彥、桑野良太郞、樋口平吾
板倉政次郞、藤村忠助

●韓人間の金融　今や韓人間に於ては彼等の所謂貢物期節たると地方騷動の爲京城在住の地主へ年貢米の來らざるため金融逼迫を來しつゝありと云ふ

●仁川民會　豫定の通り昨日午後四時より民役所樓上に於て左の如き土地交換問題に關する請願につき民會を開きたり

佛國教會所有地區內道路改修に關する請願の件

韓國政府に於て仁川佛國敎會所有地沓洞韓人部落の市區を改正し道路及下水濬渫を買收新設せられ度旨其筋に請願す

理由　沓洞韓人部落は從來交通上衞生上の設備殆んど欠乏せるも外國人所有に屬せると租界地外なる爲民團に於て直に施行するを能はざるは勿論にして遂に今日に及びしが今や當港の發展に伴ひ益々其の急務たるを認め多年の希望を遂せんことを欲するもよりく日韓並諸外國人の均しく公共の利益を受くべき道路なるが故に韓國政府に於て速に改修せられんとを出願せんとするに由る

明治四十年十一月十五日
仁川居留民團民長　[illegible]田耕司

●大韓協會設立認可　大韓協會設立の之とは既に報せし如くなるが同協會設立に就ては其認可を憲兵隊に申請せしも同隊にては戰時にあらざれば取扱ふべきにあらず統監府に申請すべしとのことにて統監府に向て申請せしに同府にては內部大臣に申請すべきものなりとて却下せしかば更に內部大臣に向ひ認可を請ひしに同大臣は此程之を認可したりと尙ほ同會總裁に前外部大臣金允植氏を推擧せしも同氏は老齡にて其任に堪へざればとて之を辭せしかば他に適當なる人を推薦する筈なりと云ふ

▲治外法權▼

本年も餘すところ僅かに一ケ月半と相來つたヲラ菊が咲たと云ふ間に天長節も濟んで御漬物の期節に入た▲韓人の漬物期節之は居留邦人の方にはなゐ樣だが韓人の方には毎年一度は必ずあるのである▲此期節になると京城の金利が毎年幾らかづゝか騰る、それは何の爲かと云へばツマリ下の理由から來るのだそうである▲京城內の韓人ザツト二十萬人あるとする此二十萬の人間共が五人で竈を立てるとすれば竈の數が四萬になる、北四萬の竈が漬物五瓶づゝを漬けるとすると丁度二十万瓶になる、此二十万瓶が一瓶五圓を要するとすると丁度百万圓となる▲百万圓の漬物代術語で云へば漬物資金が僅々廿日位の間に要るのであるから京城の金融市場に影響を及ぼし金利を上騰せしむるのである▲成韓國通に聞くと韓人共が此等漬物を漬けるのは單に食べるのみではなくて外に大なる意味があるのだソウである▲成程韓人の家を覘て見るとあまり家財は無い樣だが漬物瓶ばかりはドンナ家でも入口に五六個は必ず並べてある、此漬物瓶こそ家を飾るべき重要なる家財であつて其數の多少に仍て家の貧富を判ずるのだソウである▲ソコデ虛榮心の强きヨボ先生は內實は[illegible]ても高利を借りても質を置ても將亦娘を賣ても此漬物ばかりは盛に漬けて出來る丈ソレ丈多くの瓶を並べ隣人の目を驚かし家道の隆昌を誇るのだソウである▲所變はれば品變はるヨボの貴物江戶子の初鰹、此等は好一對の代物である▲平凡陳腐の漬物談アツサリと仍如斯である

●日歩の上騰 市内各銀行は數日前より二三厘方つゝ日歩を引上げたりと云ふ

●運賃値下祝宴 別項値下協定の後相互の會合者は鐘樓に於て祝宴を催したり

[illegible]すゝにをも招待せらるべしと

●楊樞氏の出發 京城清國總領事館に滯[illegible]統監を始め各高官等一同南大門停車場に見送りたり

●多賀事務官の歸任 江原道觀察使とし[illegible]

當税關官吏高等官宮本税關長以下九名各金[illegible]圓若干、判任官に五十錢雇員に三十錢宛下[illegible]に各五十錢宛の御下賜金ありたり

雜報

●紅筆日誌　見返り柳

▲十四日(晴天) 秋の夜の長き物語りに、つひ、まんじりともせず、後朝の別れ惜しくも昨夜の客を送り出し、再びわが部屋にと歸り掃除にも掛らんものをと、延べし蒲團を引きはぐる途端に、何にやらパタリと足許に觸れし物音のしければ、何物かはと探り見しに、一通の封書にて、表には『およしどのへお白粉代』と書し、裏には昨夜の客の名のしるしあるより、トモカクも封切り撿めしに、這は如何に二枚の十圓紙幣と一葉の寫眞にてありき、一夜の情けにつひホダされて、賴りなき身のシミ〳〵と、いとしと思ひし彼の方の寫眞にてもあれば飛び立つ程の嬉しさはあれど、こちらは又二十圓といふ大枚なお金、固より勤めする身の業ばとはいへ、會金故なれど、さりとて謂れなき金を客より貰ふ由もなく、一時も早く返し届けんものをと、墨摺り流し、筆取り上げ、身にあまる深き昨夜の情けを謝し、ソレにお志の程は忝なけれど、大枚二十圓の此のお金謂れなく頂戴いたす由もなければ、一應お手に返しまいらすとの玉章をこま〳〵と書き記るし、書留にて送り屆けにき、午後平素より仲睦ましき朋輩妾の部室に來り、妾が日記を書き居れるを見て、お客への手紙をしるし居るものかと思い、シッコク媚うれしが、別に申譯すも程の事にもあらねば、笑ひながら急いで書き掛けの紙を袂へと隱せしに、朋輩は躍起となり、必死の力にて其の紙を取らうとするを、妾は取らせまじと爭ふハヅミに鏡臺の鏡に手が當りて、無殘や鏡は微塵に破れにき、今日は身体もドウやらキック、ソレニ昨夜マンジリともせざるにや俄に睡氣を催して、知らず〳〵わが倚りし小さき火鉢にもたれしまゝ、ウト〳〵せしと思ふ間もなく、いとしき故鄉の妹の來りて、常より思ひ離れざる兩親の今際の有樣やら、親戚友達の起き居等なぞ委しく聞かし吳れソレに妾も近々の內に、姉さんのやうに出世して、東京の吉原といふ處に禿女に貰られて行くとなりしとの物語りに、妾は打驚き、一体ソレは何うした譯からと妹を胸に抱き締めながら、早く其譯合を聞かしてほし、チェ御兩親樣は情けないと胸に恨みの波湧く折りしも、誰かは知らぬわが肩をゆすぶる氣配のせしより、驚き醒めてハットわれに返れば、今のは一場の夢、涙は袖に雨なしけり、仲どんは傍に座はり、て『八重垣さん何うなすつたの、手紙が參りましたよ』と差出す封書の裏を見れば、マダあどけなき筆の運びにわが妹の名をば書しあるにぞ開く封筒のまどろしく、急ぎ拔きて案じ讀めば、這は如何に、先きのは夢と思ひしに、サテはまことの事にてありけるかエヽいぢらしきは妹の身、情けなきは父母樣と、心の內は鼎の湧くやう、ツット其場に泣き伏しけり

●來年の曆 一寸閑に任て來年の曆を押して見ると年の本命が二黑二星が中宮するから坤の方が暗劍殺とか云ふものに當る歲德明きの方が巳午の間方より庚申か一月六日を始とし十二月卅一日を仕舞に年內七回ある人の謂ふ事が果して事實であれば來年に產れる兒は皆賢いであらう一月に一日の閏を置くから二十九日になつて一日儲かる譯である節分が二月四日であるから五月二日が八十八夜で九月一日が二百十日に當る日曜日が一月五日を始として閏年三百六十六日の間に五十二日ある定りの大祭日を加算すれば六十二日休めますよ初午が二月九日で、彼岸の入りが三月十八日と九月の二十日である夏至が六月二十一日で冬至が十二月二十二日天赦日が一月十日、三月二十四日、六月六日八月二十一日、十月二十日とである此日產れる兒は天然痘に罹らぬと云ふ事也陰遁と陽遁と變る日が五月十日と十一月六日である日蝕も月蝕もないらしい大祭日と續く日曜は神嘗祭と翌日日曜日と翌日新嘗祭の二つだけ倘參考に調うて置く五黄星と二黑土星と八白金星とか死線に入るから强ち惡いに極つても居らぬが兎角宜敷ないと云ふ事であるから此星に當る人は要心して宜らう

●ダイナマイト爆發 兵庫縣川邊郡稻野村の內民陽當時京城明治町二丁目居住土方職佐藤種吉(三五)は一昨日仁川に下り新町二丁目壽亭にて飲酒中午後六時頃便所に行きしに折柄口にし居たりし煙草の火が胴卷の中に落込み懷中のダイナマイト二個に點火したる爲め何かは以て堪るべき忽ち轟然爆發して腹部に大負傷を蒙むり依て直ちに高木病院の治療を受けたるが同人が無斷爆發物を所持せるは理事廳令に違反せる所爲なるを以て其筋にては目下取調中

●類似虎列拉 熊本縣葦北郡水俣村大字丸島初森龜太郎內緣の妻池田ツキ(二十)は夫龜太郎外一名の者と共に漁船に乘組み本月八日仁川港を出帆し十日無事忠淸北道鰲川郡鳥子島に着し飲料水を汲み取り其沿岸に碇泊中翌十一日夜半より非常なる吐瀉をなし身体大分衰へたるを以て一日も早く仁川に立戻らんと思ひて歸航の途中終に船中にて十二日正午死亡せし由なるが右漁船は昨夜當港に歸着せしに依り早速醫師二名をして立會檢視せしに類似虎列拉と判明せしかば直ちに死体は火葬に附し又船体に消毒を施し總太郎外一名の者一時は避病院に收容せりと、因にツギは本月三日初めて國許より同港に着せしものにて漁船內に起臥し居り其上陸せしは唯一度入浴の爲めのみなりと

●あくだ者 本邦を喰ひ詰めて韓國三界に流れ來つた奴いづれ碌でない事は判つて居るが東京市芝區芝口一丁目の者で相川常吉(廿二)といふ奴は酒と女が大好物で手足を動かす事といつたら天窓にとまつた蠅を追ふのも邪魔くさいと首を搖つて濟ますといふ怠惰者で當地明治町一丁目の石川義夫といふ雜貨商店の手代に住み込みはしたもの〻月に一圓や二圓の小遣錢では好きな酒色の料に足るべくもあらぬより窃かに店の賣品を持ち出しては二束三文に賣り飛ばし一寸用たしに往く序にも怪しき料理屋に驅け込んで熟柿臭くなつて歸るが常なるが手代仲間では彼れが昨日は得意先でウヰスキーを饗されしとか今日は朋友の內で三鞭を飲んだとか口から出任せに言ふを眞に受けて運のよい男だと羨まれ居りしが其の職にある警察官は彼れは去る三月十八日窃盜罪にて處刑出獄後また多くの日も經ず且つは監視中なるに屢々小料理屋に出入するこそ合點行かずと目星を付けて居る內に神ならぬ常吉は斯くと知る由もなく主人さへ覺らざれは大丈夫と本月三日に賣品の仕込杖壹本(代五圓五十錢)を持ち出して知人某に賣却方を依賴し同五日には主家の店の金庫に在りし五圓紙幣壹枚を盜み取つて南大門通四丁目の唐總太郎方に至り其の內緣の妻なる山口縣生れの戶倉フシといふ莫連者と對酌し九日には明治町一丁目の雜貨商小林支店に至り石川方の使と僞り雜品數點を欺き取つてこれも酒色の料としける遂一は早くも既に警察署の淨玻璃の鏡に映つて昨十五日一寸來いの下に鐵窓の裡に繫がれたり

●遊廓通信 新町の遊廓も例年ならば箱枯れ時と云ふ時節なれど兎に角助平連の多き京城と博覽會の催されたると此頃の如き春王の四月にも優る陽氣につれて浮かれ烏も餘程多くかて〻加へて第一樓にて新たに抱へた混血女郎や皆春樓の小町が呼び物となつて已れも一つ辨天樓のお裾分に預からんと出懸るものもありて毎夜〳〵の大繁昌なれど茲に笑止なるは他の端た女郎共にて評判の混血や小町女郎の爲め勢名を奪はれ今は羽翼を縮められた雀の如くグウの音も出ず眼ばかりパチクリさせて混血や小町に口のかゝるのを聞いては羨ましそうに天井を見上げながらチョッ忌々しいと言はんばかりにて獅子鼻の付いた火鉢に凭たれ居るお茶挽きこそ實に憐れなりさても皆春樓と第一樓とは以上の女郎が座り込んだので向後の繁昌は受合なりと樓主のホク〳〵談就ては井門や京城樓でも繁榮策を講せねばなるまいとは最負筋の肩入れ事なれども未だ熟ら惟んみるに井門や京城樓は主人が多年の間京城在住の人だに依て其最負も他に優るのみならず氣の利いた仲居が人をそらさぬ待遇ぶりには客足をして他所に移す筈もないから之れは先づ心配はあるまいと[illegible]は又其道の[illegible]し茲に大に奮發を要すべきは高島屋とか、松榮とか、大升とか、南山とか淸月とか云ふ家にて此等の家々は餘り尤物も居ないそうだからとて落膽すべきに及ばず蓼喰ふ虫も好き〳〵にて夫れ相應の客足あるから先づ結搆〳〵併し新町を繁昌せしめんとならば途中にて喰止め策を講じつゝある多數の曖昧屋の處置にあるのだが之れは民團に關係あれば民團の仕事に任すとする此通信を讀んで頓んだ野心を起し玉ふなあなかしこ(雀)

●本町座藝題 本町座本日の藝題は一番目「子は寶」二番目喜劇「玉手箱」上中下にて役割は左の如し
車夫吉藏、書生藤田(井上)書生島村猛(新田)高松夫人、田鶴子、召使とく(西本)大工源公(大島)高松家令嬢重子(桂)継母岡村お市、醫學士杉山陽次郎(横山)召使おかつ、文學士元野久米雄(吉田)執事龍川、車夫金太(谷)武田巡査(中澤)工學博士杉倉吾六、文學士花野春吉(保田)召使お才(小泉)高松宗俊、陸軍中將高松宗春(青木)警部原澤新太郎、大工職幸太(北山)高松家族笠間賴三(三木)愛妾お蝶、飛鳥井百合子(三井)高松家一子俊一(三國)乞食與太郎(清水)紳士愛之助(森)岡村良吉、飛鳥井夫人(北村)

●三面痛棒 世には自分の惡德の數々を鑿して人より指彈さるゝをも知らず人の惡口を叩く輩ソンジョソコラにコロ〳〵して居るのには實に嘆かはしい次第である若し此等の姓名を擧ぐれば恐らくシルクハットやフロックを着て泥硯は歩るかれまいから痛棒子の情で預り置くが餘り人のことをホザクと鐵鎚立ろに下るのだ(痛棒子)●●●▲南山町二丁目に土藏其儘の貸家がある其貸家に擲翠樓の女らしいのが澤山居る何時も窓より品隲するから吾輩の樣な好男子なら兎も角ドタフク面を突き出して通行の男子を見てだが大概の者は耻かしくつて通る氣にならぬ態々本町に廻り道するものもあるから此品隲だけは止して貰いたい若し止さなきや大事な弗箱のことを素破拔くからソウ思へ(今丹次)●●●▲近頃新町の遊廓は美人仕入の競爭が始つたらしく皆春樓が橫濱から小町を云ふノッペり者を拾つて來れば第一樓も負けず同じ橫濱から混血女郎を拾ひ出して來た混血と沌血ソウして嫖客の面はドンナだろうか(阿呆鳥)●●●▲新町遊廓を東大門外に移轉せしむると云ふ說がある我々は大に希望する所だが併し此移轉に就ては或る樓主と或る兩班との中に利益上の問題が伏在して居るとのことを聞いた精探の上事實をお知らせしますが痛棒さん出しますか(雀)●果して之が事實として根據あるものなら掲げるから能く探り下さい(痛棒子)



